



「家族、貧困、孤立のスパイラル」

阿部 彩

東京都立大学 人文社会学部 教授 兼 子ども・若者貧困研究センター長

報告内容

1. 誰が孤立しているのか （貧困者と孤立者の重なり）
2. 「家族に依存する」日本の社会サポート
3. 貧困→家族の未形成→孤立 不利の連鎖



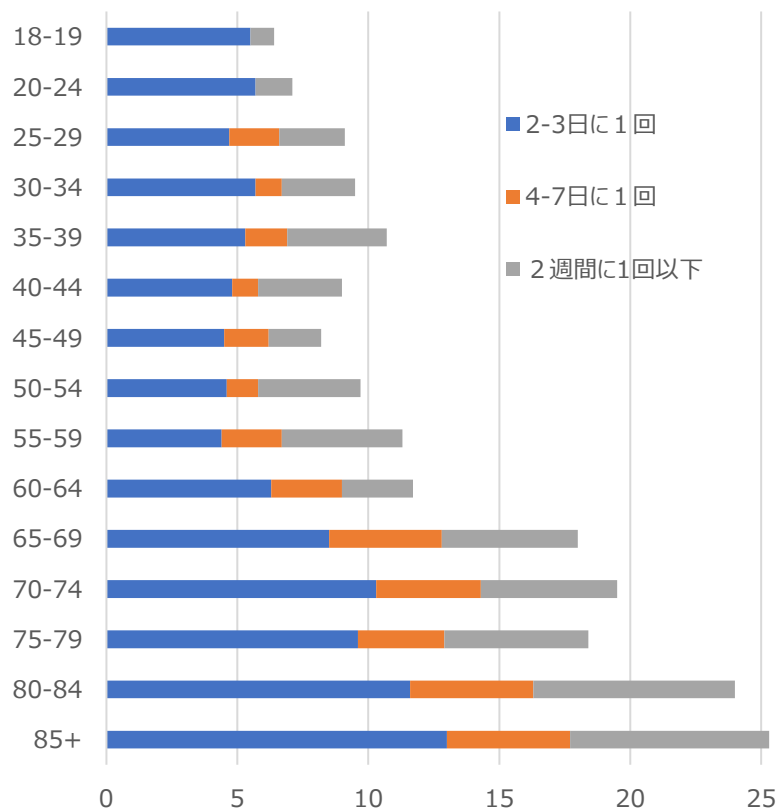


誰が孤立しているのか

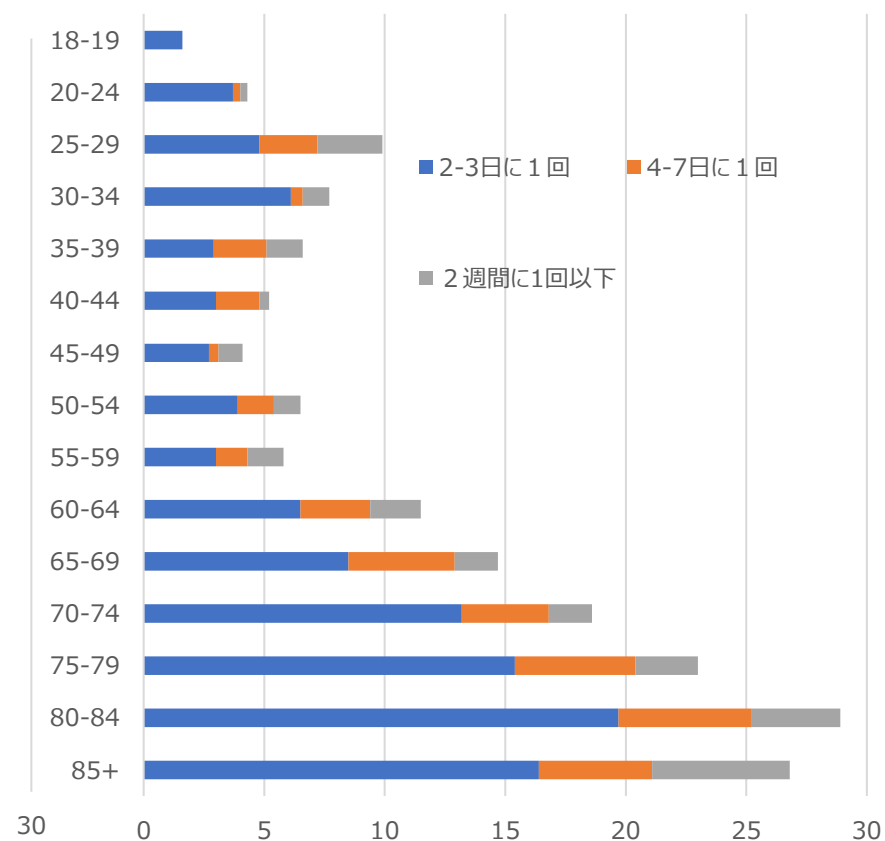
「孤立」の偏在

他者との会話が1日に1回未満の人々の割合（性・年齢別）

男性年齢別



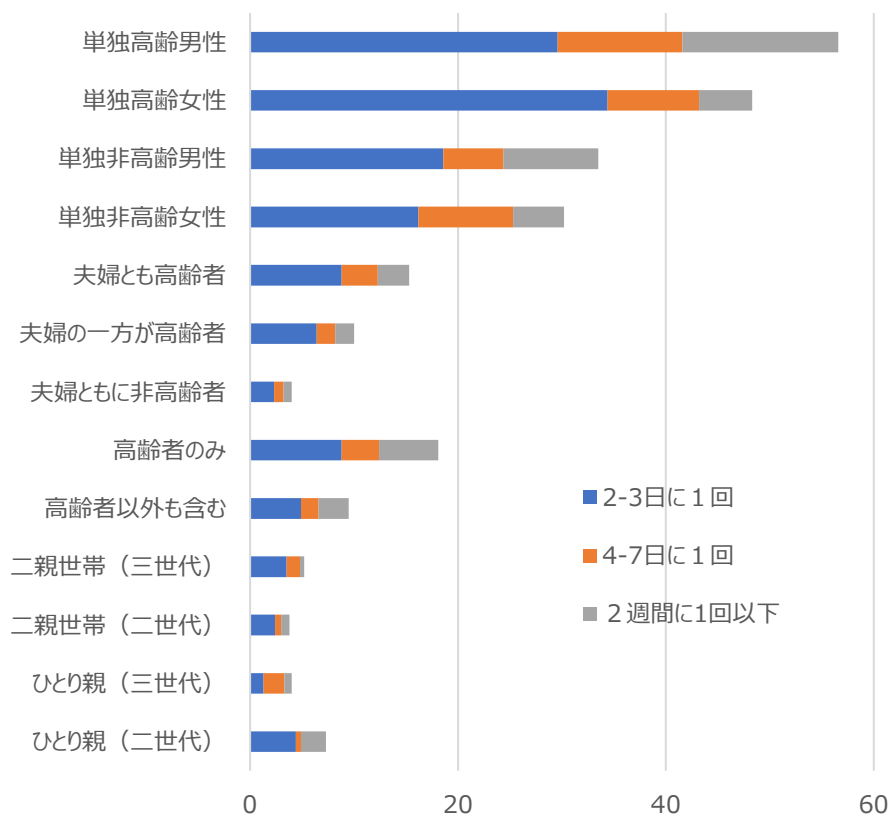
女性年齢別



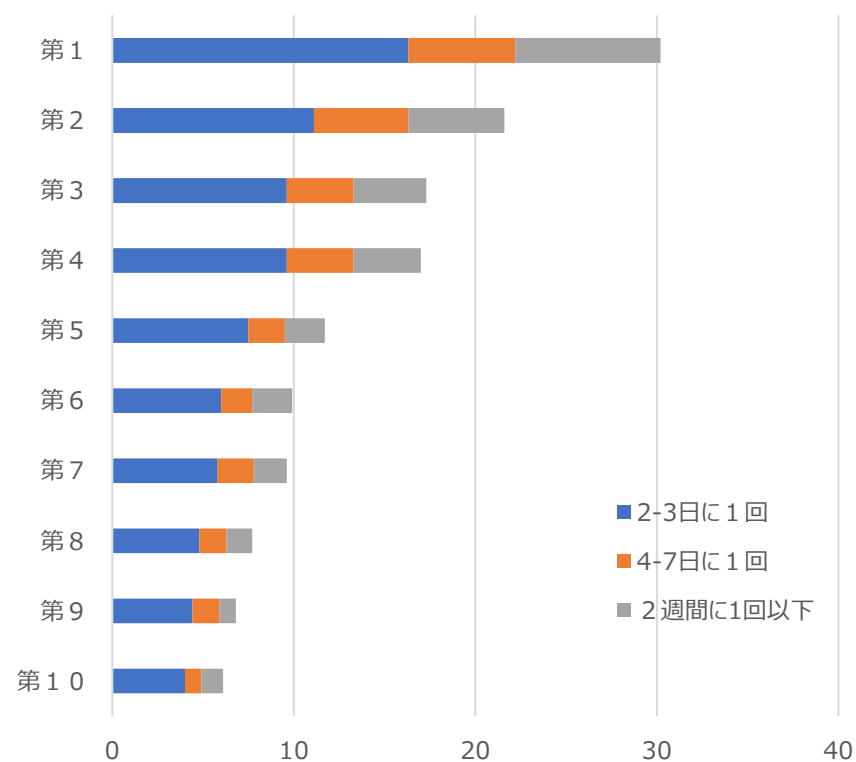
「孤立」の偏在

他者との会話が1日に1回未満の人々の割合 (世帯タイプ・世帯所得10分位別)

世帯タイプ別

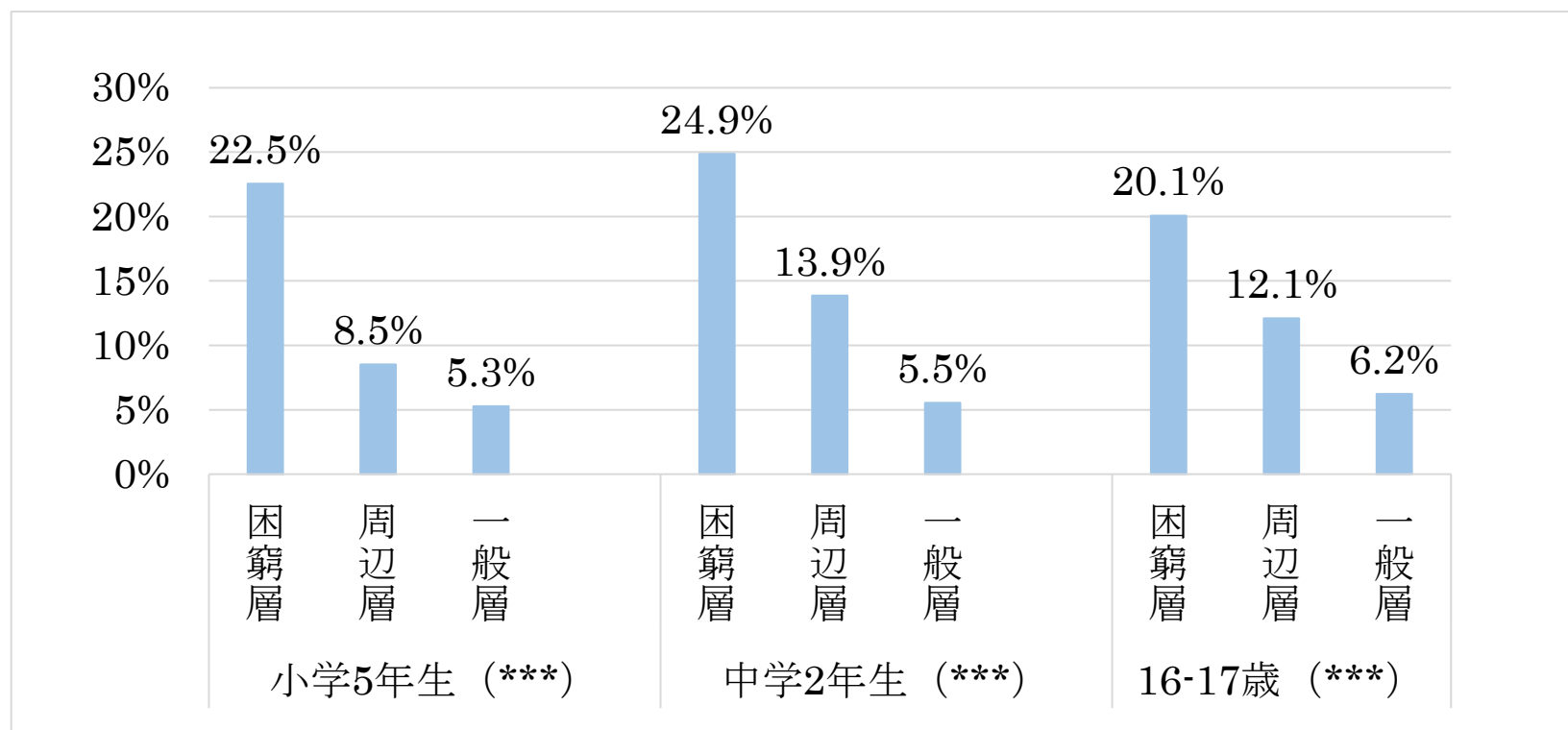


世帯所得10分位別

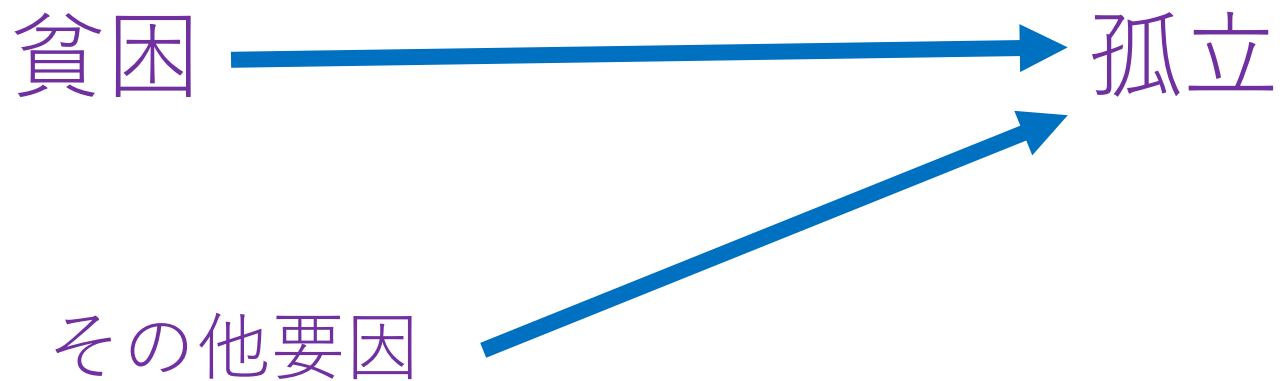


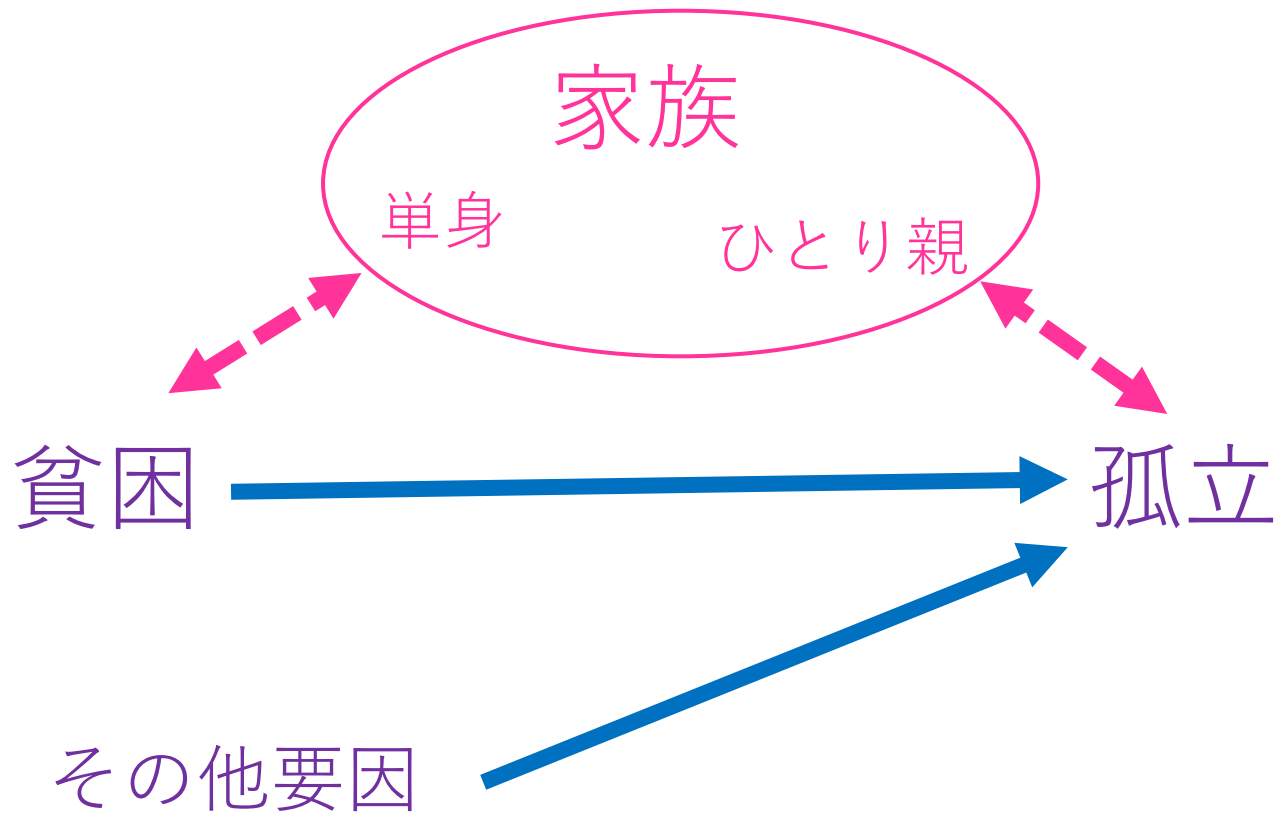
親の孤立

「本当に困ったときや悩みがあるとき、相談できる人（家族、友人、親戚、同僚など）がいますか」に「いない」と答えた**保護者**の割合



貧困と孤立の密接な関係

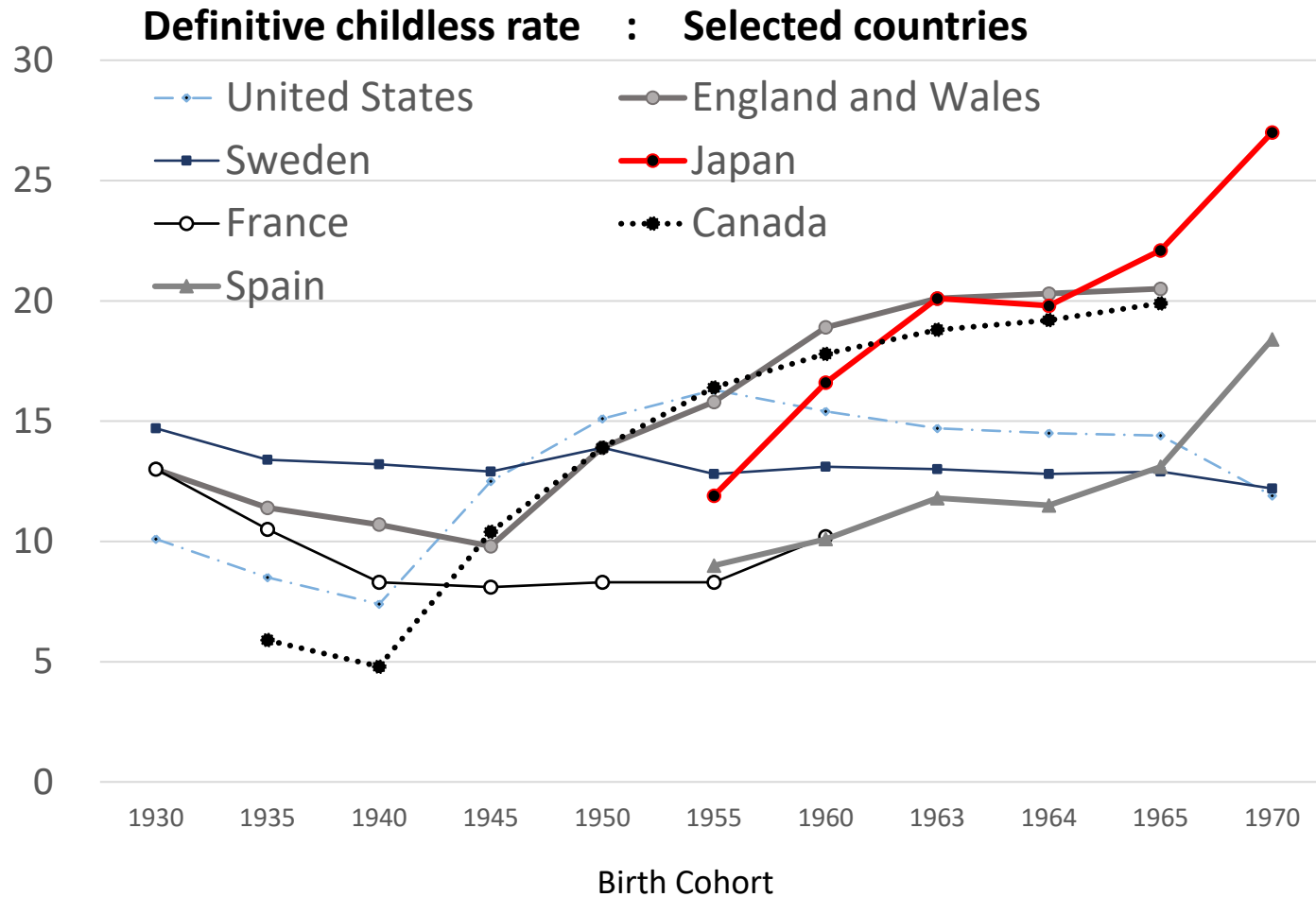




典型的な「ライフコース」の そとの人々



無子(Childless)の女性（男性）の増加



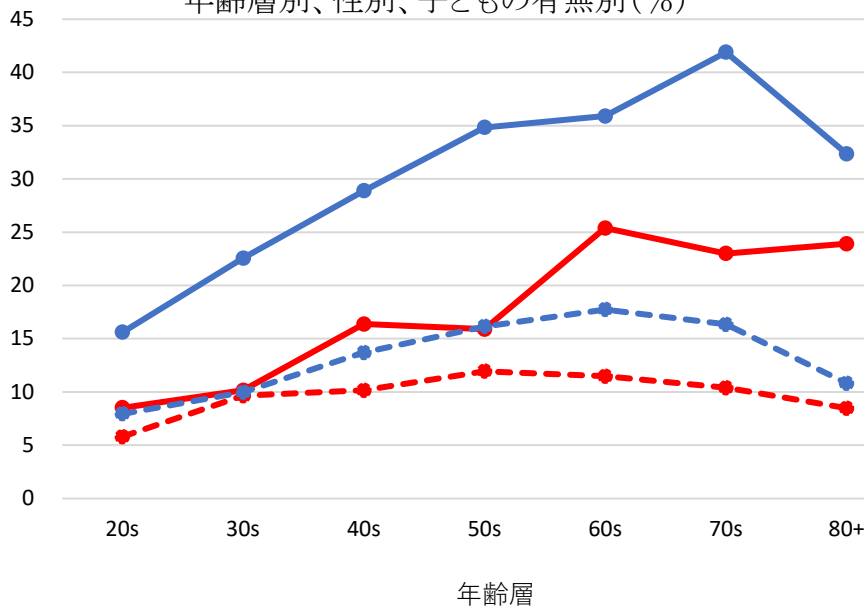
Data: OECD Family Database SF2.5. (2020/10/28)

海外における状況

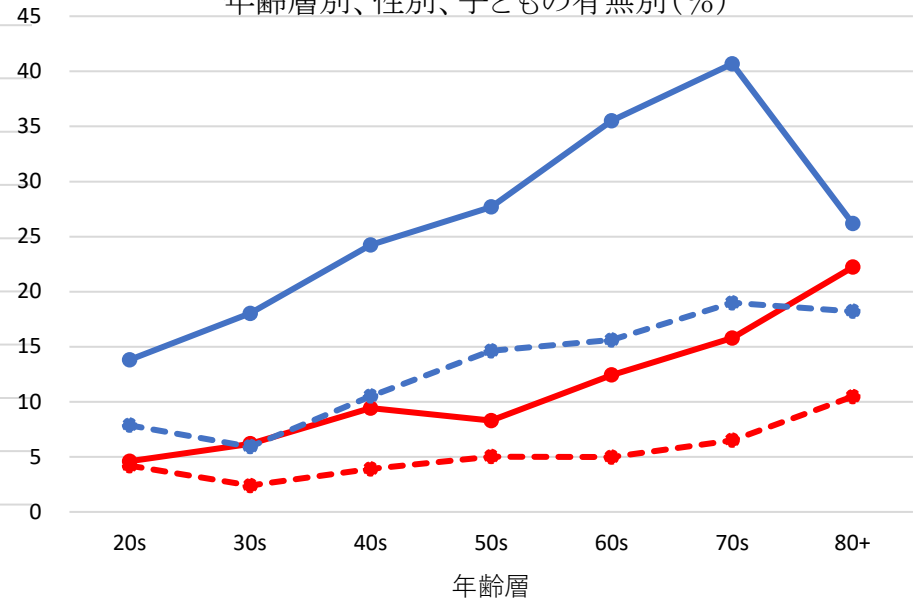
- 海外においては、チャイルドレスの人々の社会サポート、孤立、社会的排除の関連を実証した分析が蓄積（Albertini and Mencarini, 2014 ; Deindl & Brandt, 2017 ; Dykstra & Hagestad, 2007 ; Mair, 2019 ; Hansen, Slagsvold & Moum, 2009 ; Penning & Wu, 2014等）
- 高齢期において、チャイルドレスの人々の方が、子どものある人々に比べ、社会サポートが少ないという点においてはおおむね一致（Dykstra and Keizer, 2009）。
- しかし、介護など負担が大きいサポートについては不足・欠如していることが多いものの、情緒的なサポートや日常の家事や移動サポートについては、友人や隣人などの家族外の私的サポートによって補っており必ずしもそれらが不足しているわけではない。また、友人関係や交流は、無子の人々のほうが活発（**チャイルドフリー**）
 - 欧州：チャイルドレスの人々は、インテンシブなサポートについてはプロのサービスに頼る割合が多いものの、時々インフォーマルなサポートについては、近親・同居でない親戚、友人、隣人などから得ている
 - 欧州：友人や隣人との交流については、特に、チャイルドレスの女性は、子どものある女性に比べて多い傾向（Cwikel, Gramotnev & Lee, 2006 ; Dykstra & Hagestad, 2007 ; Mair, 2019）
 - 欧州：チャイルドレスの人々は、子どもがある人よりも友人の数が多い（Mair, 2019）
 - カナダ：有配偶・離別の女性は、無子のほうが家事サポート、移動サポートおよび情緒的サポートにおいて同居家族以外からのサポートを受けることが多く、未婚・死別ではサポートの差がない（Penning & Wu, 2014）

社会サポートの有無は性別、年齢、 子どもの有無に大きく関連している

日常的サポートがない人の割合：
年齢層別、性別、子どもの有無別(%)



愚痴を聞いてくれる人がない人の割合：
年齢層別、性別、子どもの有無別(%)



-●- 女性子どもがいる人 -●- 女性チャイルドレス
 -●- 男性子どもがいる人 -●- 男性チャイルドレス

-●- 女性子どもがいる人 -●- 女性チャイルドレス
 -●- 男性子どもがいる人 -●- 男性チャイルドレス

「家族主義」と 無子の人々のWell-being

- **批判や偏見**：オーストラリアの若年女性（20~40歳代）チャイルドレスであることがスティグマとなり、社会的排除に繋がっている（Turnbull, Graham & Taket, 2016）
- **家族主義**：子が親のケアを担うべきといった家族主義が強い国や、社会保障制度における家族の役割が大きい国においては、チャイルドレスの人々が孤立し、必要なサポートが得られない傾向がより強まる（Baranowska-Rataj and Abramowska-Kmon, 2019；Deindl and Brandt, 2017）

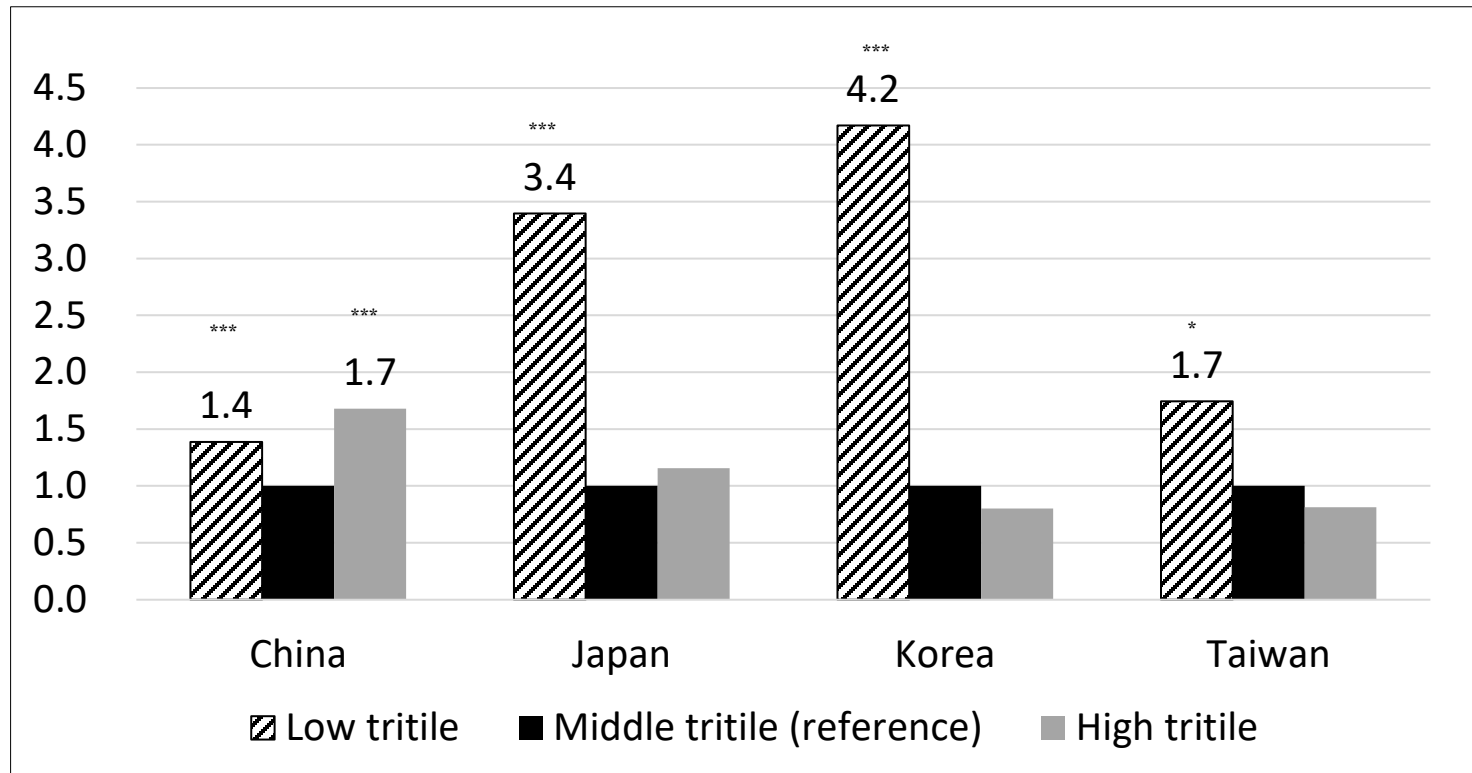
家族主義と無子の人々の社会的接触

- 欧州：Baranowska-Rataj & Abramowska-Kmon (2019)
- 無子と有子の社会接触の差の大きさは、家族主義が強い国の方が大きい
 - 親への扶養義務 - +*** (「成人した子どもは、自分のウェルビーイングを犠牲にしても親の介護をする義務がある」に同意する割合)
 - 親への愛情規範 - +*** (「どのような親であっても、子どもは親の対して敬意と愛情をもつべき」に同意する割合)
 - (制度) 法的義務 - not sig.
 - (制度) 家族介護への報酬 - not sig.
 - (制度) 高齢者への最低保障年金への賛同 - not sig.
 - (制度) 年金額 - +*** (年金代替率)

日本（と韓国）では低所得層が無子になりやすい

無子になる確率：所得3分位

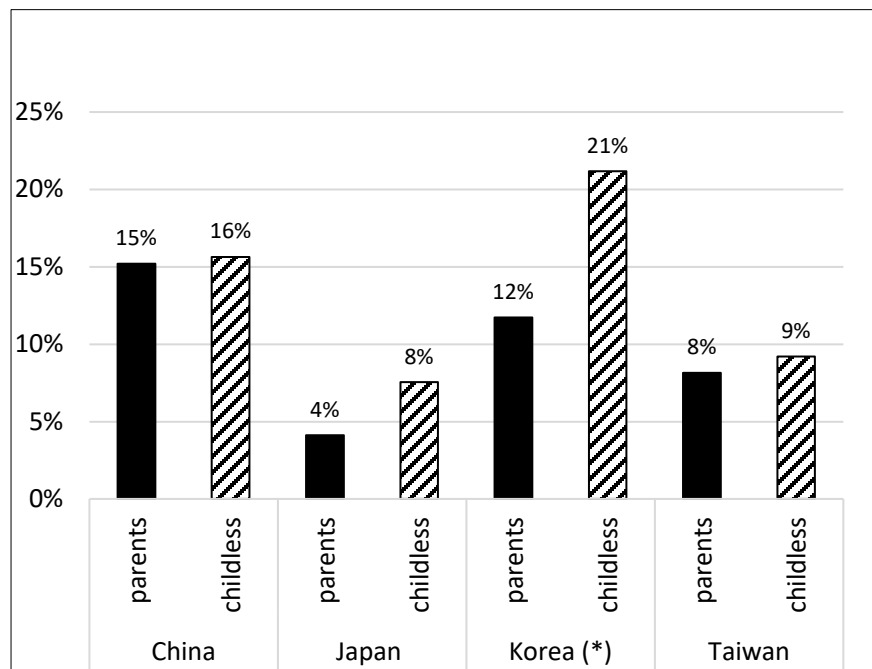
*年齢と性別コントロール



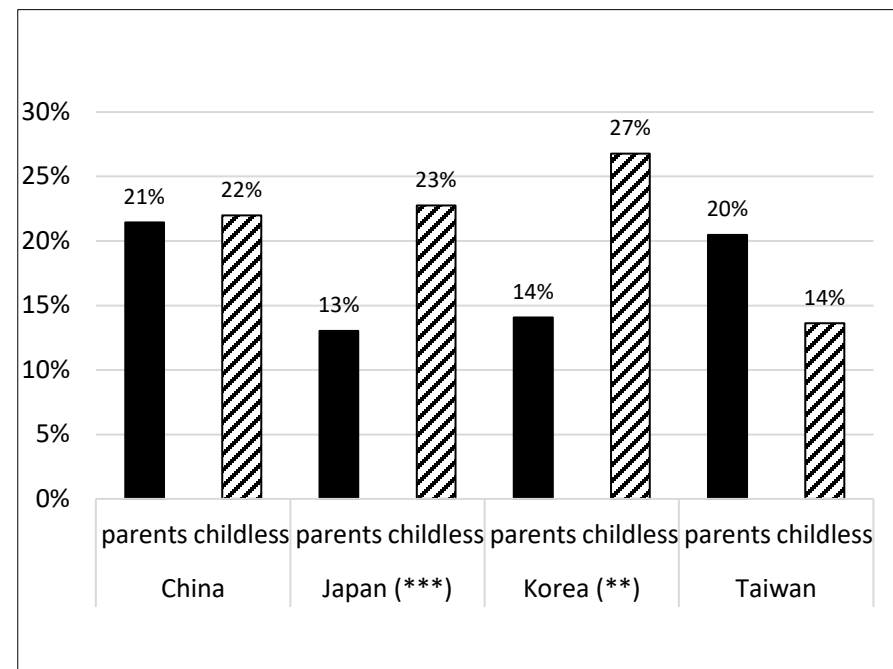
*年齢、性別、配偶関係、健康状態、学歴、所得をコントロールしても日本×無子、韓国×無子が有意

日本（と韓国）では、 無子の人々は有子の人々に比べ社会サポートを得ない

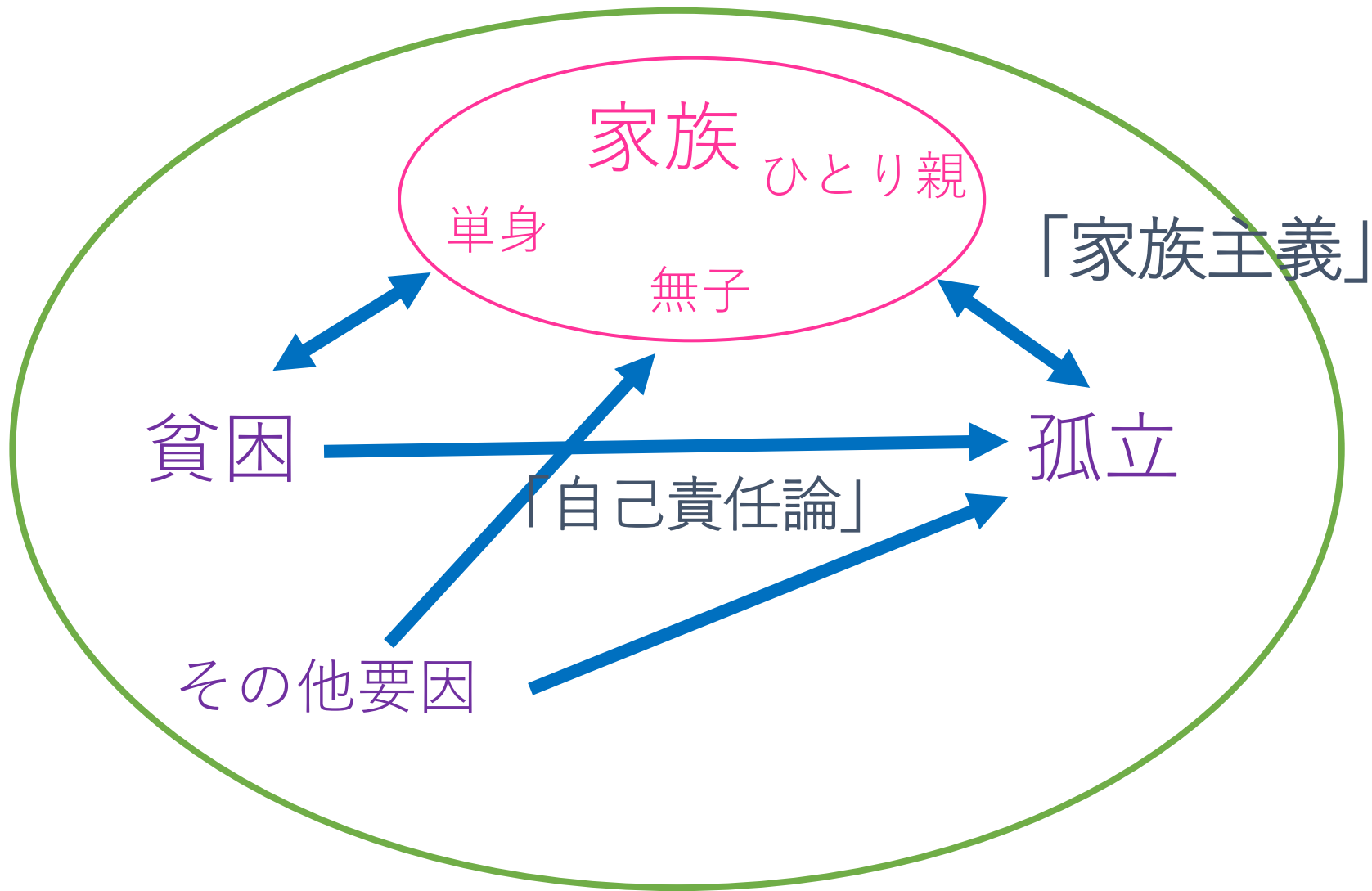
家の周りのちょっとした手伝いについてサポートを得ていない割合



相談や悩み事を話すなど心理的サポートを得ていない割合



*年齢、性別、配偶関係、健康状態、学歴、所得をコントロールしても日本×無子、韓国×無子が有意



貧困／「家族」からの逸脱／孤立 不利のスパイラル

- 「家族」から逸脱（たとえ結婚していても子どもがいない等）している人々にて、介護などのサポートが少ない傾向があるのは海外の状況と同じとしても、情緒サポートや心理的サポートにても少ない

「家族主義」

- 貧困は、「家族」からの逸脱と孤立の両方とに強い関連

「自己責任論」

- 家族以外との交流・人間関係の構築、「逸脱」が「選択」となるような社会の必要性



ありがとうございました